

【はじめに～35年の歩み～】

本年度、浦安青年会議所は、35周年を迎えます。1981年8月2日、志を高くもった青年が、次代の担い手とならんと決意し設立されました。私は今36歳で、浦安青年会議所が設立された当時、私が幼少期の頃の浦安は、今とはまったく違いました。貝殻の混ざる駐車場で叔父さんとキャッチボールをしたり、その貝殻で道路に絵を描いて遊んだことを思い出します。八百有余年の歴史と伝統を有する浦安は漁村として文化を形成していた歴史があり、家族や地域の繋がりも強く、自然豊かな碧い海とともに生きる習慣がありました。その後、1964年からの海面埋立事業とともに、海辺の葦のまちは、漁師町の匂いが懐かしく感じるほどまで大きな変貌を遂げ、全国に誇れる財政力を持つ『うらやま市』と呼ばれるまでになりました。しかしながら、宅地開発も一段落し、開発余力も限界が見えてきており、ひとつの転換期にきています。

東日本大震災による液状化被害で浦安のブランドは傷つきましたが、多くのボランティアが浦安に集い、このとき感じた人の温かみがどこか懐かしい感じがしました。しかしながら市外に転出する人もいました。浦安の市民に願うのは、浦安に住んでいることを誇りに思っていて欲しい。そのために、この地に誇れるものを創り出すのが我々青年会議所の使命であります。今日の成果は、過去の努力の結果であり、未来はこれからの努力で決まる。浦安青年会議所35年の歴史と伝統に感謝し、光り輝く浦安の創造に向けて情熱と誇りをもって邁進していきます。

【まちにものごたり力を】

学校では、浦安の歴史については多くは学びません。浦安の由来は初代浦安村村長である新井甚佐衛門の災害がない世の中にと願いが込められた「浦（海）やすかれ」という言葉が始まりだと言われています。浦安という名称自体は『日本書紀』第3巻「神武記」の一節に「昔、伊弉諾尊この国を名づけて曰く、日本は浦安の国」と記されており、浦安は日本（大和）の古称・美称でもあります。

学べば、学ぶほどに自分が何も知らなかったことに気付く、気付けば気付くほど学びたくなる。アフリカなどで、新聞紙を丸めただけの手作りのボールで遊んでいる子どもたちがいます。自由からは、自由な発想は生まれず、不自由の中でこそ、想像力から創造力を発揮します。このように、子どもたちの想像力は、無限大です。子どもたちに浦安の文化・歴史観を伝播することで、想像力を刺激し、創造力をもって夢をかたちにするために必要

な「ものがたり力」を醸成します。浦安の子どもたちには、誰よりも想像力と創造力溢れる人間に育って、出会う人を感動させて欲しいのです。そして、無限の可能性を秘めた浦安の伝道師がここに誕生するのです。

#### 【子どもたちが夢を掴むために】

私は学生時代に部活動で野球とサッカーを経験しました。その中で、仲間との助け合いや、相手との調和や、目上の方への礼儀など多くを学ぶとともに、負荷をかけることでの成長を体感しました。子どもたちには、難しい事を論ずるよりも、小さな体験を多く積み重ねることのほうが重要だと考えています。

サッカー日本代表の本田圭佑選手が小学校の卒業文集でこのように書いています。「セリエAに入団します。10番で活躍します。」夢に期日を入れる事で、夢が目標となり、夢の達成の可能性が上がると言われていました。浦安のこれからの未来を担う子どもたちに、夢に期日を付け、成功のイメージを持ち、あきらめずに努力する重要性を伝えます。また成功のイメージがあるからこそ、日々の修練に真剣に向き合えるということを伝え、それをサポートしてくれる家族や友人への感謝の気持ちも育んでいきます。子どもたちが自身の成長を感じる機会を提供することが、青年会議所の使命でもあり、それが、子どもたちの自信に繋がり、一層夢に向けて加速していくのです。

#### 【「営業力」を推進力にして】

商品を買りたいと思ったときに、まず何を考えるでしょうか。私はサラリーマン時代に営業を経験し、製品や商品を説明する前に、自分自身を情熱的に相手に売り込めないようでは、物は売れないということをも身をもって経験しました。お客様との信頼関係を構築し、自らのファンになってもらうことで、商品が売ることができるようになるのです。商品知識などは二の次で、まずは相手への情熱と思いの強さなのです。情熱の有無がすべてのスタートであります。このような営業感覚をまちづくりにも生かしていきます。

会員拡大においても、青年会議所のメリットを説明したところで、説明している人間や事業に魅力が無ければ相手にも響きません。本年度はメンバー全員が『営業感覚』を持ち、魅力的な事業をもって、会員拡大をして参ります。拡大に成功することで、メンバーはさらに『人持ち』となり、一層大きな運動を展開します。『運は一瞬、縁は一生』新たな出会いこそ青年会議所の魅力なのです。

#### 【協働の可能性は無量大】

地方分権改革が進む中で、市民はもっと地方自治体と協働してまちづくりに当たる必要がありますが、漁師町からの急速な発展というまちの背景から、市民の協働意識はまだまだ低いと感じています。また、投票率の低さからも、政治や市政への意識は、決して高いとはいえません。

まずは、統一地方選挙において政策本位による政治選択運動を推進するとともに、市政への参画意識を向上させます。政治批判をする前に、政治に関心を持ち、主権者としての自覚をもった市民が一人でも多くいれば、必ず、まちの未来は光り輝きます。

昨年までの2年間、浦安青年会議所は協働事業提案制度にて採択された人と地域をつなぐ就業体験事業を開催いたしました。本年度はこの就業体験事業を他団体と協働して展開することで、協働の新たなスキームを確立します。「イノベーションは天才によるひらめきではない」と言ったのは、ピーター・ドラッカーです。「すでにあるものの組み合わせからイノベーションが生まれる」浦安の地域特性を生かし、それぞれの団体の特徴・人脈をフルに活用することで、協働による新たなイノベーションを生み出します。市内の様々な団体に横串をさせる唯一無二の団体がJCなのです。

### 【青年ならではの真剣な議論を】

青年会議所は議論する場所です。まちの未来を描き、本気になって真剣に議論するからこそ、楽しく、お互いの成長があります。委員会・理事会では多めに意見を戦わせて欲しい。委員会はその意見・質問に耐えうる仮説や回答を用意するところに個々の成長があり、メンバーの団結も生まれます。このような委員会・理事会を通った議案は、必ず意思を持ち、市民の心に響きます。情熱があるから真剣にやる。真剣にやるから面白い。すべては議論するため。会して議せず、議して決せず、決して行わずであってはならないのです。青年らしく熱い議論をすることが、必ず地域の変革に繋がるのです。

『ES（従業員満足度）なくして、CS（顧客満足度）なし』私は青年会議所運動についてもこのことが言えると考えております。私たちメンバーに充実感や満足感があるからこそ、市民に私たちの運動が響くのではないのでしょうか。熱い議論とともに、互いを認め合い、褒める風土もモチベーションを保つ秘訣です。米をつくるには、田を作れと言われる様に、良い米をつくるのであれば、草をむしり、土を耕し、肥料をやって田を育てることが必要です。しっかりとメンバーが成長できる風土を確立することで、メンバーの満足度をあげ、効果的な運動を展開して参ります。

### 【5年後の未来に向けて】

私たちJCは、単年度制であり、毎年トップが変わりながら、運動を展開していくのが特徴です。メリットも多いですが、先見性のある種を撒くものの、花が咲くまで、継続して運動を展開できていないのも事実です。『愛郷心あふれる人財が躍動する未来へとつながる浦安』を基本ビジョンに掲げた5カ年運動方針を35周年から展開することで、郷土を愛する人の持つ情熱とエネルギーを最大限に発揮し、5年をひとつの節目とした継続した運動を展開し、光り輝く浦安を創造します。

### 【おわりに】

明治維新や革命がそうであったように、情熱だけが新しい時代を切り開く。夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なきものに成功なし、故に、夢なき者に成功なし。

情熱をもって、次代の担い手として、一所懸命に愛する地域のため、誇れる浦安を創造しようではないか。情熱で動かせないのは、君の情熱が弱いからである。

情熱が必ず光り輝く浦安を創造する  
昨日より今日、今日より明日  
僕の前に道は無い、僕の後ろに道はできる

#### ☆ 事業計画

- ・ 創始の精神と未来を共有する創立35周年記念式典の開催
- ・ ものがたり力を醸成する創立35周年記念事業の開催
- ・ 夢を掴む力を醸成する青少年事業の開催
- ・ 営業感覚を養う研修事業の開催
- ・ メンバーの個力を強化する研修事業の開催
- ・ 20名以上の会員拡大
- ・ 統一地方選挙の投票率向上に繋がる事業の開催
- ・ 統一地方選挙における「e-みらせん」の運用
- ・ 市民・他団体と協働するまちづくり事業の開催
- ・ 「人と地域をつなぐ就業体験」の開催
- ・ 第27回わんぱく相撲浦安場所の開催
- ・ OB親睦会の開催
- ・ メンバーの満足度を高める交流会の開催
- ・ ゆめクルン普及促進運動
- ・ 公益社団法人日本青年会議所への積極的な支援・協力
- ・ 各出向者への積極的な支援・協力